

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

久保井 卓郎 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Collagenase *Clostridium histolyticum* Injection Therapy Improves Health-related Quality of Life in Patients with Dupuytren's Disease

(Dupuytren拘縮に対するコラゲナーゼ注射治療は患者の健康関連QOLを改善させる)

Takuro Kuboi, Tsuyoshi Tajika, Fumitaka Endo, Wataru Goto, Ichiro Nakajima, Satoshi Hasegawa, Daisuke Nakajima, Takafumi Hosokawa, Hiroataka Chikuda
Progress in Rehabilitation Medicine (誌名), vol.6 (巻), 2021 (年)

論文の要旨及び判定理由

本研究では、Dupuytren拘縮に対するコラゲナーゼ（CCH）注射治療により心理状態（うつ度）と健康関連QOLに影響があったかを検討した。

罹患手指関節可動域、握力、手の機能評価としてHand10、健康関連QOLの評価として日本語版EuroQol 5dimensin、うつ状態の評価としてGeriatric Depression Scale日本語版（GDS-J）をそれぞれ注射前と注射後6か月に調査した。CCH注射前と注射後6か月の比較では罹患指のMP及びPIP関節の伸展角度が有意に改善した。またEuroQol indexスコア及びVASも有意な改善がみられた。CCH注射前と注射後6か月の臨床変数の変化量の相関では注射前後におけるGDS-Jスコア変化量とHand10スコア変化量に有意な相関がみられた。またGDS-Jスコア変化量とEuroQolスコア及びVAS変化量に有意な相関がみられた。

CCH注射による治療効果の判定において手指の機能回復については多くの報告がされているが、心理状態（うつ度）の変化、生活の質の変化を評価した報告は少ない。本研究によりDupuytren拘縮患者に対するCCH注射は、生活の質を改善させ、CCH注射による手の機能の改善度とうつ度の回復度に関連性があることがわかった。Dupuytren拘縮患者に対するCCH注射の治療効果として新規性のある報告であることと認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（令和4年1月19日）

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 皮膚科学分野担任	茂木 精一郎	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） リハビリテーション医学分野担任	和田 直樹	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 機能形態学分野担任	岩崎 広英	印